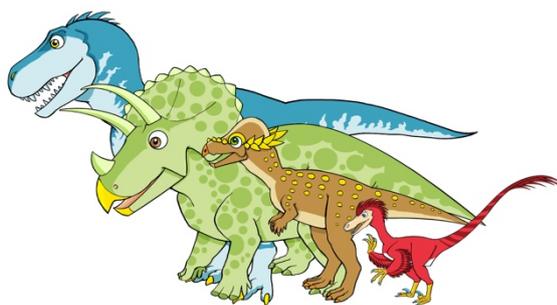


「恐竜ミュージアム in ちば」は大盛況でした！

伊左治 鎮司

平成30年度の特別展「恐竜ミュージアム in ちば」は、平成30年7月14日（土）から9月24日（月・振休）にかけて開催されました。この展示は「ちば文化発信事業」と位置づけられ、平成24年開催の特別展「ティラノサウルス-肉食恐竜の世界-」から6年ぶり、平成21年以降では2回目の特別展となりました。

「恐竜ミュージアム in ちば」では、木更津在住のマンガ家、森本はつえさんにご協力いただき、マンガを用いた展示解説を導入しました。恐竜たちがマンガで展示物を解説することで、かた苦しい文字解説を少なくし、マンガの持つ気楽さと情報量を活かした解説を目指しました。マンガによる解説は、単に子供向けではなく、若い親御さんに興味を持ってもらう狙いもありました。家族での会話がはずむと期待したのです。



マスコットキャラクターの恐竜たち（イラスト：森本はつえ）

展示の目玉は、マイアサウラとカマラサウルスです。どちらも世界的に希少な実物化石を用いた全身骨格です。また、「恐竜ってなんだ?」「恐竜の歯」「恐竜の爪」「恐竜大きさをくらべ」「恐竜の仲間わけ」「ティラノサウルスの仲間」のテーマを設け、恐竜の基礎から、形態の多様性や特殊性のほか、恐竜学の最新の話題についても紹介しました。



ホールに展示したマイアサウラ（国立科学博物館所蔵）

熱心な古生物ファンにも満足していただくため、初公開となる実物標本を多く集めました。「白亜紀の陸の生き物たち」のコーナーでは、国の天然記念物「桑島化石壁」（石川県白山市）から発見された哺乳類やトカゲなどの、新種の基準となるタイプ標本を18種公開しました。その中で「ハクセプス」は、2003年に中央博物館の化石発掘イベントで発見された新種のトカゲで、15年経過して初公開となりました。

「白亜紀の海の生き物たち」のコーナーでは、銚子市から発見されたアンモナイトや貝類の化石を集め、19種のタイプ標本を公開しました。また、「恐竜かもしれない骨化石」を展示し、千葉県からの恐竜発見の期待を高めました。この展示は、銚子ジオパークと連携して企画したものです。

展示室の廊下では、森本はつえさんの恐竜マンガ「爆笑BADLAND」を展示し、恐竜学の最新的话题を紹介しました。併設したクイズコーナーの恐竜スタンプは、子供たちに大人気でした。

平成最後の夏に開催した「恐竜ミュージアム in ちば」は、52,776人[※]もの入場者を迎えることができました。この特別展で、初めて中央博物館に訪れた方も多かったようです。また、9日間もリピートしてくれた少年にも出会えました。この場を借りて、博物館に入場されたすべての皆さまと、展示制作・運営に関わったスタッフに厚く御礼申し上げます。

※本館展示室入場者数（無料 + 有料入場者）

（地学研究科）



カマラサウルス（手前、群馬県立自然史博物館所蔵）とティラノサウルス（奥、パレオサイエンス所蔵）